



近森会グループ

びるっば 2

Vol.271

発行 ● 2009年1月25日

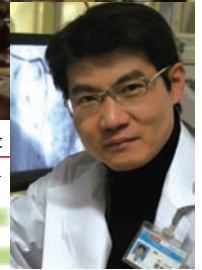
www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

昨年に引き続き、第2回 高知赤十字病院・近森病院 合同パス大会を開催 2009年1月17日
急性冠症候群 (ACS = 急性心筋梗塞、不安定狭心症、心臓突然死をひとまとめにした概念) パスをテーマに

医療の標準化へ向けて



近森病院 循環器科 科長



関 秀一

性心筋梗塞、不安定
狭心症、心臓突然死を

ひとまとめにした概念を ACS といいます。

今回は当院主導で行なった経緯もあり、今回は高知赤十字病院の主導で数回の事前打ち合わせの後、当日を迎えました。総勢274名(高知赤十字病院101名・近森病院106名・院外67名)と、大勢ご参加いただき、この誌面を借り御礼申し上げます。

合同の大会では互いのパスを提示(医師・関、浜口富代看護師、濱口早千子理学療法士、明神有希薬剤師、矢野純子管理栄養士)しあうことにより、**客観的に当院のパスを見つめ直せる利点**があります。

当院のパスは、最重症例を除くほとんどすべてのACSの患者さんを入院時からパスに組み入れている点、入院時から退院するまでチーム医療でサポートしている点、ACSの重症度を血液検査値(PeakCPK値)のみで決めず複数の因子から総合評価することに変更した点が**評価**されました。

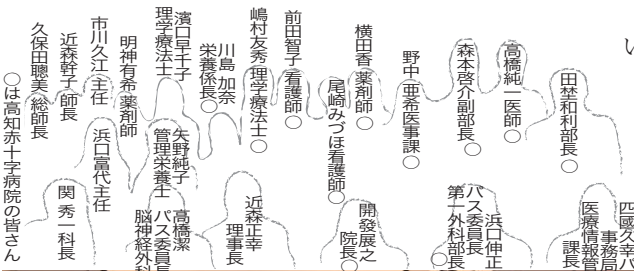
高知赤十字病院のパスでは、入院中に患者さんと面接しACS発症時の危機体験を振り返ってもらうことによって精神的サポートを行なうなど、さすが約150年前の赤十字の創設者アンリー・デュナンから受け継ぐ精神でしょうか、**我々には思いも付かない試みに感動**しました。

また、医療費について医事課の市川久江主任から、『冠動脈造影検査のみで治療がなされないと赤字になる…(入院費を含めると別ですが)』との説明では、会場が沸きました。

今後は2施設のみならず多施設でのパスの検討が、**医療の標準化にも繋がるもの**と期待を残して…3時間に及ぶ合同パス大会は盛況うちに終了しました。

今回のテーマで、ACSという呼び方は、少し馴染みが薄いと思いますので、簡単にご説明いたします。

心臓の筋肉(心筋)に酸素や栄養を運んでいる冠動脈にできた動脈硬化性の粥腫(脂肪の塊)が、突然破裂して血栓を形成し冠動脈の血流を減少させたり(不安定狭心症)、途絶えさせたり(急性心筋梗塞)して、突然死に陥ることがあります。このような病気の発生機序から、急



2009年1月17日開催、第2回合同パス大会参画の皆さん

一食一食一期一会



近森 正幸

口のなかがどうもおかしいと思っていたら、舌の右下面が白くなっていた。こすれたり、お酒の量や、脂質代謝に関係した症状ではないかと思うが、念のため生検(患部を採って病理検査すること)してもらった。

そんなことがあって、食べることや飲むことが大好きで、ある程度、味が分かりはじめた私は、五感のうちでも味覚をいち倍大事にしたいと思っている。そうした味覚がたとえ一部であっても損なわれるかもしれない今は、一食一食が一期一会だと感じている。

それに還暦を過ぎると、生命に限りがあることも実感するようになって、最期の日がくるまで健康で、美味しいものは美味しく味わい、人生をできるかぎり楽しく過ごしたいと考えるようになった。散歩や筋力トレーニングなど、健康にいいと思えることは、いままで以上に頑張っている。

三カ月ほど前に「マサイの靴」を奨められ、散歩に履いていくようになった。その靴は踵が無く靴底全体が弓状で、マサイ族の歩き方が自然にできるという。一カ月ほどで歩く姿勢は良くなるし、身体全体に筋肉がついてきた。散歩から帰ると、さらに腕立て伏せや腹筋を50回、スクワットを2、30回毎朝やることにしている。

食生活をはじめとした生活環境の改善と、医学の進歩で、現代の日本人はずいぶん長生きになった。その分、最期まで元気で人生を楽しく生きるための努力をしなければ、と自分の心を奮い立たせている。

理事長・ちかもり まさゆき

女性リワーク【仕事に戻る】 応援プロジェクト

リハビリテーション科医師 和田 恵美子



医師、看護師など女性スタッフの出産・子育て支援、復職支援はブームになっていますが、当法人でも女性スタッフの復職支援プロジェクトを立ち上げるようになりました。

医師、看護師の復職を支援します



撮影／山崎啓嗣 (診療支援部)

リワークという言葉は「re-workで仕事に戻る」という意味です。今まで子育てをしながら仕事をしていくのに心強い24時間託児所や、産休育休制度のあとの職場調整はありました。子育てなどで退職をしている医師、看護師の方で復職したい方をさらに支援していくためのプロジェクトです。

プログラム・四つのメリット

以下の4つのメリットがあります。①勤務時間帯の希望に応じた設定②プログラム期間中プリセプターによる指導③勤務時間がフルタイムに満たなくても社会保険加入可能④子どもの病気など急な事情のときは勤務調整可能。

医師は内科・外科等もともと専攻している科への復帰や、ERやリハビリテーション科等への変更、内視鏡など専門技術を

いかした分野での勤務も可能です。近森会にある科ならどの科でも応援します。

看護師はブランクのある方への復職支援コースとキャリアアップコースがあります。基礎的な看護技術の再習得、急性期看護・リハ看護などのエキスパートナース取得などいろいろなニーズに対応し再チャレンジをしていただくためのサポートプログラムを考えています。

ご要望、ご提案お寄せください

1月22日に広報もかねて「マンマ・ミア！」という映画の試写会の協賛をおこないました。子どもと一緒に演劇をみるNPO高知市子ども劇場への法人会員としての参加も計画しています。またなにかご要望、ご提案がありましたらご一報ください。

糖尿病性舞踏病 原因解明の糸口に

葛籠幸栄科長の
糖尿病学会中国四国地方会
での

発表が推薦論文として 掲載されました

糖尿病内分泌代謝内科の葛籠幸栄科長が、糖尿病性舞踏病の症例について、第45回の糖尿病中国四国学会で発表した。糖尿病性舞踏病というのは、血糖コントロール不良群において、ごくまれに、手や足が自分の意志に反して勝手に動く不随意運動を起こしてしまう病気のこと、その原因はまだはっきりしていないのだそうだ。



推薦論文として掲載された「糖尿病学雑誌2008年11月号」を手に、糖尿病内分泌代謝内科の葛籠幸栄科長

葛籠科長は今回、その症例において「頭部MRIに特徴的な異常影を認めることを発見し、原因解明の糸口になるのではないか」と考え、その内容をこのたびの学会で発表したもの。それが、このたび優れた発表であるとの評価が得られ、論文に残すべしとの推薦をもらうに至り、『糖尿病学会誌2008年11月号』に掲載されることになった。

このような形で推薦論文が掲載されるのは高知県ではほとんど初めてではないかとお褒めくださる方もあるそうで、先生は「思いもかけない評価をいただき嬉しい。励みになります」と満足げに話されている。

当院に糖尿病内分泌代謝内科が発足したのは2007年3月、2カ月後の5月には糖尿病サポート委員会が設立され、糖尿病患者さんの治療がチーム全体、病院一丸となって取り組まれることになった。

葛籠科長は、「まだまだ試行錯誤の段階ですが、本当に皆様のご理解とご協力のおかげで成り得たことです。引き続きチーム一丸となって頑張っていきますので、応援をお願いします」と、決意を新たにされている。

聴診器と私 マイパートナー

聴診器は、臨床栄養士として欠かせないアイテムです。

とくに近森病院のように、NST(栄養サポートチーム)などチーム医療に積極的に取り組んでいる病院は、職域を越えたOn the Job Trainingにおいて医療人としての能力が培われ、臨床栄養士としての責任を全うする上で、聴診器は必須なもの



宮澤部長の栄養状態は？
「栄養状態がよくなれば、真壁の責任」と冗談?に言われることもしばしばだからこそ頑張れ

近森病院 臨床栄養部 科長 真壁 昇

るのかもしれない。栄養のプロとして、栄養によって治療効率を上げるという責任を果たすために、あらゆるアイテムを駆使する必要性が必然と生まれたのかと思っています。

学生時代に臨床栄養部の宮澤靖部長と出会い、それが聴診器との出会いでもありました。当時、宮澤部長はEmory university Hospitalより帰国直後で、米国との栄養管理の違いについて熱く語ってもらいました(08年8月号ひろっば参照)。

以後10年近く行っている胃内排泄を中心とした消化管運動に関する研究に繋がっているように思います。聴診器と一緒に歩む中で、今後も心強いパートナーとして、たくさんの方を教えてくれることでしょうか、その真実を的確に捉える技術を身につけていきたいと思っています。

「高知へ「森伊蔵」他薩摩芋焼酎を引き連れて 帰って参りました」

社会福祉法人ファミーユ高知 法人本部長 濱田 守正



昨年7月のある日。鹿児島へ来て7年目、四国犬「劉太」と単身赴任を謳歌していた私に、川添管理部長から思いがけない電話がありました。「鹿児島を引上げて高知へ帰ってこいヨ、なるべく早く」「すぐには無理、こっちの理事長と話はするけど、川添さんの人事？」等と話をし、高知に帰るべく鹿児島島の理事長夫妻に相談しました。夫妻は近森理事長とはかねてより親

交があり、「近森へ帰るのだったら仕方ないね」ということで、12月末「森伊蔵」他薩摩芋焼酎を引き連れ高知に帰ってまいりました。

本年1月より、近森会グループの「社会福祉法人ファミーユ高知」法人本部長に就任し、昨年4月から民間移管を受けた「高知ハビリテーリングセンター」の新規事業に携わらせていただいております。

障害を抱えて生きる人々の社会復帰に向け、就労支援するための環境を整え、近森会グループの理念である「救急から在宅まで」の医療福祉の一翼を担わせていただき、更なる発展に寄与できればと思っております。(※8面ニューフェイス欄参照ください)

2008年度 看護部 成果報告会

看護研究をやめ、研究支援チームを作った!

近森会グループ 看護部 教育委員会 委員長/老人看護 専門看護師 岡本 允子



2008年12月23日には55名もの皆さんが参加してくださり、ポスター5題・口演6題の発表が行われました。



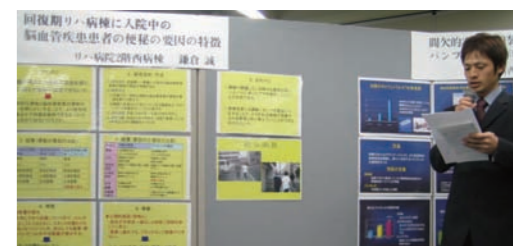
多くの圧倒された松永智香総看護師長の発表

毎年、看護部では院内看護研究発表会を開催してきました。しかし、業務の合い間に行う看護研究がノルマとなり、締め切り近くなると勤務終了後夜遅くまで準備に追われ、看護研究を行うスタッフのストレスとなっていました。本来、看護研究は自分自身が明らかにしたいと思う課題をもつことから始まり、その課題が明らかになり終了した時には達成感や満足感が得られるはずなのですが……。

そこで、今年度は思い切って看護研究をやめ、楽しく看護研究ができるサポートをしようと看護研究支援チームを作り、定例の勉強会と研究支援を行ってきました。

こういった経緯もあり、今年度は院内看護研究発表会を看護部成果報告会と改め、各部署や委員会が取り組み学会等で発表した成果を報告してもらうことにしました。

特に精神科松永智香総看護師長の発表には参加者の多くが圧倒されたようでした。また、介護職の方の発表もあり、介護の活動を知る良い機会となりました。発表終了後には、梶原看護部長より4題に対し奨励賞が贈られました。



リハ病院 2階西病棟介護職・鎌倉誠さんの発表

終了後に行ったアンケートにおいて全員が「参加してよかった」と答え、さらに次年度「発表したい」・「発表してもよい」と答えた人が3割、逆に「発表したくない」と答えた人が1割であり、ノルマではなく、楽しく意見交換でき、自分から参加したいと思える場になったのではないかと思います。

2月の歳時記

梅 文 臨床検査部 柳井 さや香

梅は日本の早春を代表する花として、古くから親しまれています。落葉高木で、10mくらいまで大きくなり、開花は2-3月、花は5枚の花弁を有し白、紅、淡紅などの色の種類があります。

6月くらいに実が黄色くなりはじめ、その酸味の強い果肉を使って梅干しや梅酒が作られています。ちなみに、「梅雨(つゆ)」の名の由来は、梅の実がなる頃に雨が降りださるからです。梅は、私の中学・高校時代の校章に刻まれている花でもあり、とても思い出のある花です。



画 千光士 可苗

ケアのワンポイントアドバイス

ブラッシング動作の自立へ向けて

近森リハビリテーション病院 歯科衛生士 植田 彩子

急性期から回復期病院に転院して来られた患者さんの口腔内衛生の維持向上、そのためのブラッシング方法、道具の提案に歯科衛生士は関わっております。

口腔清掃が全介助から自立へ

脳血管障害の後遺症で片麻痺となっ

た患者さんは麻痺側の顔面に感覚低下があるため、食べかすが残りやすく、また義歯の出し入れや清掃も困難となります。

今回、自助具を使用することで、ほ



1997年度科学技術庁長官賞受賞「片手で洗える入れ歯ブラシ」の吸盤付き器具

ぼ全介助だった口腔清掃が自立で行なえるようになった患者さんの例を紹介いたします。

入院当初、左片麻痺があるため、食後は左側の頬にたくさんの食べかすが残ってしまいます。食べかすは、歯ブラシや、うがいでは取り除くことが出来ず、義歯の出し入れ、清掃も全介助でした。

吸盤付きブラシで擦り付けて

1カ月後、義歯清掃道具「かたてまくんブラシ」の練習を始めました。かたてまくんブラシとは吸盤付きブラシで洗面所に固定し義歯を擦り付けて磨くブラシ（上の写真）です。

何度か練習をすることで義歯の清掃はほぼ磨き残しなく行なえるようになりました。

ですが義歯の出し入れは介助し、頬に残った食べかすは取り除くことが出来ない状態でしたので、次はその2点を集中して練習しました。

義歯の出し入れの自立へ向けて

義歯の出し入れは麻痺側から義歯を挿入しようとしますが、上部分義歯のパネが左唇に引っかかり装着出来ません。そのため、歯科往診治療によって左頬側のパネを切除しました。するとパネが口唇に引っかかることなく装着が出来るようになりました。

食べかすはブラシを一方に

食べかすは、くるりナブラシを使用し、奥からかき出すように一方にブラシを動かすことで除去できるようになりました。

退院目前には、自信も付いたのか私の顔を見ると「今日は100点」と白い歯を見せニコリと笑っていました。

これからもより多くの患者さんの笑顔が見えるように、一人ひとりにあったブラッシング方法と道具の提案を行なっていきたいと思ひます。

新シリーズ★近森会交友録エッセイ

異物視ではなく、馴染む努力！

おかだ れいいちろう

昭和 8年1月21日、岡山県出身
昭和 30年 明治薬科大学卒 薬剤師
昭和 30年~33年 堀井薬品工業 KK プロパー
昭和 33年~50年

医療法人八木病院 薬局長・事務長
昭和 48年~63年

立教大学社会学部 講師（施設管理論）
昭和 48年~ 社会医療研究所所長
平成 11年~ トロント大学老年学部
アソシエイト・メンバー

平成 11年~ カナディアン・スクール・オブ・
マネジメント 経営管理名誉講師

平成 12年~14年 日赤看護大学 非常勤講師

著書「21世紀までの医業経営とPR」「病医院を支える人材育成法50」「いのちは誰のものか」「近未来の医業経営」「生き方上手は死に方上手」ほか多数

◆米国・カナダ 病院・ホスピス・老人ホーム等
視察団コーディネーター 約40回
◆月刊紙「社会医療ニュース」発刊



社会医療研究所 所長

岡田 玲一郎

ずいぶん古い話になる。わたしが近森病院に最初に来させていたのは、瀬戸大橋もない、高速道路もない、宇高連絡線のころだ。台風がやってきて、高知の街の灯が眼下に見えているのに飛行機は伊丹空港に向かってしまった。翌日、事務長会だったと記憶するが（アヤシイ）、講演を頼まれていたから伊丹から岡山経由で宇野の宿屋に泊まり、高松に船で行ってタクシーで近森病院に着いた。そういえば、最近台風があまり高知に来ないような気がする。

台風は来なくなったが、心臓の病気がやってきて、ずいぶんお世話になり、それが続いている。ステントでは、病院の組織論として貴重な経験をさせていただいた。どうということかという、組織の成員（例えば新入職員）を異物視するのではなく、馴染む行動が必要不可欠だと学んだ。ステントとも、馴染むしかなかったのである。異物感のある胸痛とも馴染んでしまった昨今である。

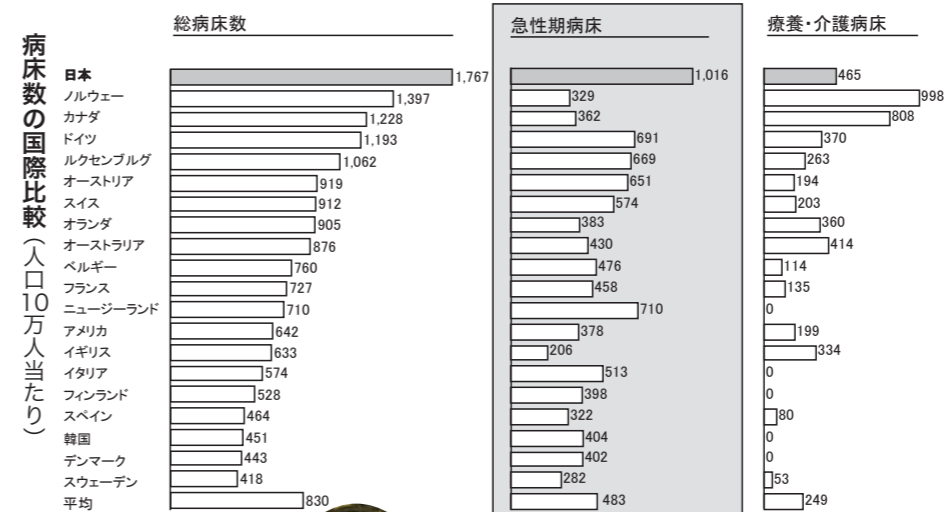
「近森会グループ」は、我が国の医療組織としてリーダーの地位を築かれてきた。経営スタッフの力はもちろん大きいですが、私の持論でいえば一般職員がいなかったら病院は動かないから、一般職員のパワーが強大に作用したと確信している。経営者と管理職だけでは、絶対に成し得ないのが病院の質の向上だと思っている。ホンの少しだけでも、そのことに値する仕事ができれば幸せだ。そして、川添管理部長が強く願望しておられる、高知での客死を実現したい。

新シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください！（ひろっぱ編集部）

出張報告 ● 第3回 DPC (診断群別定額払い方式) 分析ワークショップ

「院内課題の自立改善 (PDCA)」をメインテーマに、神奈川県横浜市で開かれた第3回 DPC (診断群別定額払い方式) 分析ワークショップに、近森会グループが利用している DPC 経営分析ソフトの利用メンバーとして参加したスタッフのなかから、市川主任と隅田さんの報告を掲載します。

DPC の情報を可視化する意義



診療支援部 医事課 主任 市川 久江



今回は8人の先生方の講演と、分析実践トレーニングがありました。分析を因数分解に、救急病院を焼肉屋に喩えての講演や、クリニカルパスの評価・臨床指標・業績管理など DPC データを活用している他病院の講演、コストと経営や診療情報と監査など、次なる課題に取り組まれている事例の話などを興味深く聞くことができました。また、データのまとめ方についても「複雑性指標」・「効率率性指標」などもデータを他病院と比較することで図や表にして分かりやすくしているケースの発表がありました。

正確な DPC データ分析をするためには、日々の正確なデータ入力が必要であることを念押しされた感じがしております。

分析するに当たっては、まず DPC データの構造を理解し「仮説」を立て分析を行ない、結果を現場で確認する手順をふんで、目的を持った分析と共にアクションを起こすことが大切だと感じました。

また、組織として患者を診る力を上げるには、チーム医療の大切なことを改めて実感し、職員間のコミュニケーションが有効な手段だとも思い知らされました。

DPC 分析にあたっては、事務部門だけでなく医師やコメディカルとも、DPC の情報を可視化することにより、情報を共有し、問題の把握から原因の追及までを行なえるのが理想です。この出張を、今

▲ランチョンセミナー「医療環境の変化と病院戦略」で使われた資料より掲載。この項目の下段には「急性期は acute と呼ばれる病床区分（一般病床と ICU など）、介護福祉は Nursing といわれる病床（日本は特養、老健、病養などを含む）1994～98 年資料：OECD データ（2000 年）；濃沼氏「医療のグローバルスタンダード」、と説明されている

後の原価計算やクリニカルパス等の分析に生かしていきたいと思ひます。充実した出張になりました。有難うございます。

診療支援部企画情報室 隅田 誠



今回、当院と同じ DPC 分析ソフトを導入している病院のワークショップに参加させていただきました。

他病院の分析事例や分析方法の講演と次期バージョンの実践があり、分析の方法としては論理ツリーを用いて深掘りをする事で、着目すべき原因が簡単に見えてくるという点で分析の始める手段として身近に感じました。

DPC は自院のマネジメントの基盤と臨床研究の基盤として活用できることでどの病院も注力しているようです。

また、電子カルテ導入病院の講演もあり、電子カルテヘルプデスクに連絡のあった問題点をデータ化し、業務改善に役立てている話には必要性を痛感致しました。

今後医師が領くような視点で分析し、コスト削減の可能性を洗い出すことや電子カルテ障害対応で「ムダ」を省けるようにしていきたいと思ひます。

新シリーズ♥♥♥ 管理部長のこだわり ヘルシー美食 3

先月、ワイングラスを持った赤ら顔の写真が掲載され、ずいぶん囁聲（ひんしゅく）を買ってしまったと思うが、お正月号ということで、ご容赦いただきたい。



川添 昇

ぶどうの果汁で作ったイタリア・モデナ産のバルサミコ酢をときどき使っている。甘酸っぱい深みのある味で、ステーキやサラダなどに振りかけている（バルサミコ酢はスーパーで売っています、1千円～2,3千円程度です）。

今回は、

バルサミコ酢を使って

葱鮪（ネギマ）丼



画 臨床栄養部 科長 吉田 妃佐

〈作り方〉

- ①しょうゆ、砂糖、味醂 各大さじ1、日本酒 大さじ2。バルサミコ酢をお好みで適宜入れ、タレを作っておく。
- ②鮪はメバチのサクを 200g を食べやすい大きさに切って (1cm 以上の厚さで) ①に 30 分ぐらい漬けておく。
- ③その間、ごはんはバルサミコを適宜入れ寿司飯のようなものを作っておく。味は酢や塩で調整。
- ④京ネギの白いところか、高知のネギの白いところを 3cm ぐらいに切り揃える。京ネギの場合は大きいので、包丁で斜めに切れ込みを入れておく。
- ⑤フライパンにオリーブオイルを敷きネギを投入し焼目が少し入ったら ②を投入し、鮪に火を通し過ぎないように気をつけて、ネギとともに小ぶりの丼のご飯の上に乗せ、タレを煮つめ、ネギマの上に垂らして出来上り。

〈食べる〉鮪がこんなに美味しいものかと驚嘆する（少し大きさが）。ウマ味をたっぷり吸ったネギとご飯のコンビネーションの良さ。これは酒の後のメではなく、立派にアテとして通用すると思う。今度は奮発して中トロでやってみよう！

リレーエッセイ

家庭菜園

画像診断部 佐野 寿人



安心して子供にたべさせられます……。しかしウチの子は野菜大嫌い。

夏は子供たちの大好きミニトマトを畑中に植えました。楽しいほどずなりにミニトマトが実り大成功！赤いのをみ

つけてはつまみ食い……。うまい！

ところが、今年はどうしたことでしょう？野菜がうまく育ちません。じゃがいもの葉はしおれ子供たちが楽しみにしていた芋掘りは悲しい結果に……。葉物も大きく育ちません。

考えてみれば、種まきは遅れ、肥料は適当、水やりも時々……。放ったらかしでした。家庭菜園と言ってもこまめな手入れと愛情をかかすと野菜も期待には応えてくれません。これを教訓に来年こそ、うまい野菜をたくさん作るぞ！と日々、野菜作りの本とにらめっこするきょうこのごろであります。

目指せ！「自給自足兼業農家技師！」

『愛情たっぷりに育てた野菜だけあってこれがまた、まいうー（うまい）です。』しかも農薬も使ってないので、

★ボクの大事な助っ人たちは、左から昇偉（しやうゑい）、遙空（はるか）、萌衣咲（めいさ）です！



★ボクの大事な助っ人たちは、左から昇偉（しやうゑい）、遙空（はるか）、萌衣咲（めいさ）です！

家庭での楽しみのひとつに一昨年前から家庭菜園を始めました。休日のたびに庭を掘り汗をだらだら流し、筋肉痛になり、やっとのことで小さいながらミニ畑を作りあげました。（近所のおばちゃんに褒められるほど）。最初に作った冬野菜は、ほうれん草、水菜などの葉物とじゃがいもを育てました。成長が楽しくて、出勤前 帰宅後は子供よりも一番に畑のチェックが日課！愛情たっぷりの水やり肥料も欠かさず立派な野菜に育ちました。

『愛情たっぷりに育てた野菜だけあってこれがまた、まいうー（うまい）です。』しかも農薬も使ってないので、



新医療安全シリーズ ②

なるほどね

近森病院医療安全担当看護師長 青木 千利



「医療安全の仕事は農耕民族のようなものだからねえ」、彼がミーティングでそう言った。うまく PDCA サイクルに乗り切れない医療安全活動が、何度も見たような内容のヒヤリハット報告書につながってしまうのだと自滅直前の私にシャワーをかけた。

参加している仲間は「なるほどね」とフツと笑った。頭はまっすぐ前に向き、穏やかな視線だけを投げかける、いつもの彼のスタイルが座を和ましてくれる。週に1回行なっている医療安全活動戦略会議は愚痴あり笑いあり、怒りあり、そして喜びあり。

食料採取のために田畑を耕して種を蒔き、発芽を願って水をまき、時には強くたくましくと麦踏みをしてストレスを与えてしまう。

彼は続けて言った。「狩猟民族とはまったく違うものね」。なるほど、なるほど上手く表現するなあ…。私の硬い土にみんなが鍬を入れてくれる。部署のセーフティナースは芽を出すタイミングを見計らっているにちがいない。

臨床面での改善へ向けての取り組み

だからこそ改善しようとクリニカルパスもパス大会のたびに修正進化され、QC 活動や医療安全など委員会活動も発展してきました。

しかしそのための作業が業務終了後発生するために意欲の高い人ほど息切れがおこり、私生活とのバランスで危機が生じているのも事実です。

思いをしっかりと受け止める看護

今年は組織構造の改善でその危機を乗り越えたいと考えています。

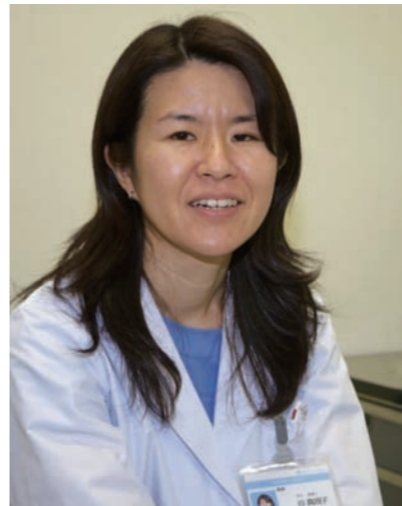
結論からいうと、ひとり一人のやり甲斐感や充実感を上げるために看護の醍醐味をベッドサイドで示しながらスタッフを支援する「モデル実践管理者（実践ナース）」を配置したいのです。

仕事の優先順位と患者さんや家族の思いをしっかりと受けとめることができる人材がどれだけ輩出できるか、正念場です。

人物ルポ 250 ● 近森病院 麻酔科 医師 谷 真規子 さん

緊張感と充実感が癒しに繋がる

いざ！手術！！。颯爽とこのあと後ろの扉の奥へ……



手術室のなかに居ないときはこのいで立ちが多い

ぶことになった。

で、実際に授業を受けてみると、心の動きと身体の関係は、「少し教えてもらえば自分なりに納得できることだった」と気づく。が、まだ麻酔科には繋がらない。麻酔科も色々な科を経験するなかのひとつにか過ぎなかった。

そうして医師としての経験を積む過程で、「麻酔科の動きのダイナミックさ、あるいは密度の濃さ」を実感する。つまり、これが谷先生の性分と合ったのだろう。

テキパキと決断し即行動に移すことが求められる手術の現場で、いま、これとこれのどちらを先にすべきか、「黙ってじっと考えてから動き出すタイプ」だという。「そんな自分は周りを困らせているのではないのでしょうか…。ときにそんな心配をしないではないが、「侵襲から患者さんを守るのが自分たち麻酔科医の役割」「患者さんにどうやって快適に手術を受けていただけるか、他科の先生方はいかに手術に集中していただけるかが大事」だと、常に自分を奮い立たせている。

多くの幼稚園児が、大きくなったら「お花屋さんになりた〜い」とか「ケーキ屋さんがいい！」などというなかで、「わたしは耳鼻科医がいい！」という園児がいたら、周りにはどんな印象を持つだろう。真規ちゃんは耳鼻科に連れていかれるたびに、普段まず目にしないような、耳鼻科医が額に付けている額帯鏡に興味を持ったり、仕組みの複雑そうな治療器具を面白がったり…。そんな子だった。

「とても丁寧な日常を過ごしていた」専業主婦の母親にとっては、「今から思えば随分育てにくい子だったろうと思う」と谷先生はいう。「頑固で言い出したらきかない子」だったとも思うそうだが、それは80歳を過ぎて篆刻を始め、それを新たな仕事にまでしてしまった祖父の影響ではないかと見る。その祖父は今でもしばしば広島県の地元から電話をかけてきては孫娘に「訓示」を聴かせる。「それがまたじつに納得させられるんです」と、谷先生も神妙に受け入れられるから有難い。几帳面で真面目で一途で、筋が通らないと許せない。そんなおじいちゃんの態度が大好きなのだ。

ところで、耳鼻科医を望んだ園児の頃を過ぎ思春期を迎え、今度は「心の在り方」に興味を持つようになる。ちょうどメディアでも心の問題が話題にのぼることが多かった時期で、当時は東北大と九大にしか心療内科がなかったようで、「家から近い方を受験」。最終的には心の動きと身体の間を、九州大学で学

ペースを合わせて皆で仲良くお出かけ、のような人間関係は昔からあまり得意ではないようだが、オンとオフの切り替えを上手にしたい、とは心がけている。個性的とかユニークとか、ちょっと変わっているとか見られることがある谷先生だが、むしろ普通の若いお嬢さんの部分もいっぱい持っている。

もっと若い頃はバイオリンを弾き、中高時代にはオーケストラ部にも入っていた。昼間に家に居ない生活が続き、いつの間にか遠ざかってしまっはいる。それでも、オーケストラやパイプオルガンの生演奏を聴くのは大好きだし、ヒマを見つけて県外までも聴きに行くのが「趣味といえば趣味かなあ…」という面もある。

甘いものが大好きで、岡山時代はカフェ巡りが趣味だった。高知に移ってからはまだカフェの開拓には至っていない。緊張感と充実感、これが結局のところ一番の癒しに繋がっているから。



ぼくが、やっつけちゃおき！ 内科外来 岡林 友季子

一年前の大晦日に激しい頭痛とめまいに襲われ入院。そのとき、私を元気づけてくれたのは二人の子ども達と夫、家族、友人、病院のスタッフの皆さんでした。

なかでも「お母さん病気に負けなよ！ぼくが、やっつけちゃおき！」と言ってくれた長男の一言が忘れられません。うれしくて、二人をギュッと抱きしめるのですが、身体が思うように動かず悔しい思いをしました。子ども達のあどけない笑顔や励ましに、落ち込んでいた自分から前向きに考えられる自分に変化していきました。

支えになってくれた大事な大事な二人の子ども達との一枚です。入院を体験し子ども達の存在の大きさ、家族の絆をより強く感じる事ができました。今は写真のように笑顔で過ごせることを幸せに感じながら、家事、育児、仕事に奮闘の日々を送っています。



看護部 キラリと光る看護 その45

モデル実践管理者の配置

看護部長 梶原 和歌



臨床がうまくいくということ

看護師長はどうすれば臨床がうまくいくかということをいつも必死になって考えています。うまくいくということは、患者さんの状態が良くなって、喜んでいただけて、ベッドが空き、次の救急患者さんを受け入れられる状況になることと、スタッフが仕事のやりがいを実感できることです。

臨床現場の現実

現実はどうでしょうか。昨年12月の病床稼働率は近森会グループ全体で92.4%、近森病院では95.6%で

救急件数は429件、救急お断わり件数が112件と多い月でした。

ナースたちの負担と疲労度

お断わりの理由は集中系満床でベッドコントロール困難、つまり重症度・看護必要度の高い患者さんが多かったということです。治療のためのモニタリングや検査処置の多さ、全患者の看護必要度評価の記載、そして綿々と続くADL介助とケアの必要性に、ナースたちの負担と疲労度は高く、看護のやりがいを実感する余裕が無い人が多いと感じます。

2009年2月13日(金)正午~17時

バレンタイン献血

近森病院玄関フロアで♡

2008年 12月の診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	17,755人	
	新入院患者数	766人	
	退院患者数	811人	
	近森病院		
	平均在院日数	15.62日	
	地域医療支援病院紹介率	93.19%	
	救急車搬入件数	429件	
	うち入院件数	224件	
	手術件数	379件	
うち手術室実施	256件		
うち全身麻酔件数	161件		

図書室便り

《2008年12月受入分》

- ・最新整形外科学大系7手術進入法-上肢/高岸憲二(他専門編集)
- ・専門医のための精神科臨床リユミエール7精神科プライマリ・ケア/伊豫雅臣(責任編集)
- ・食品・栄養 食事療法事典/木村修一(他日本語監修)
- ・医療安全いろはカルタ/安田正幸(監修)
- ・弁護士による医療訴訟とリスクマネジメント Q&A で学ぶ/田邊昇
- ・救急医療改革-役割分担、連携、集約化と分散-/小濱啓次(編著)
- ・悪魔の呪文「誠意を示せ」悪質クレーマー撃退の50ポイント/深澤直之

《寄贈本》

- ・レジデントのための感染症診療マニュアル/青木真
- ・ACLS マニュアル 心配蘇生法への新しいアプローチ/沼田克雄(監修)
- ・成人市中肺炎診療ガイドライン/日本呼吸器学会市中肺炎診療ガイドライン作成委員会(編集)

《別冊・増刊号》

- ・透析ケア 2008年冬季増刊 透析療法指導看護師が臨床で学んだ 事故を起こさない!トラブルに対応できる!透析手技安全実践マニュアル/大坪みはる(監修)
- ・別冊 NHK きょうの健康 コレステロール 減らそう悪玉 増やそう善玉/寺本民生(総監修)
- ・別冊・医学のあゆみ がん分子標的治療の最先端/戸井雅和(編集)
- ・腎と透析 Vol.65 増刊号 血液浄化療法 2009/北岡建樹(監修)

《DVD・ビデオ》

- ・VIDEO JOURNAL OF Japan Neurosurgery Vol.16 No.3/日本脳神経外科学会(監修)

編集室通信

▼どういう理由からか、私の周りでは数年に一度の頻度で結婚ウエーブがやってきます。今年はまさに当たり年! 寿ラッシュ! 年内を考えると、両手の指では間に合わないかも。春に先駆け、花盛りの様相です。特徴的なのは電撃結婚……ではなく、じっくり大切に育んだお付き合いが実を結んだカップルが多いこと。そう言えば、今年は風水では「なにごととも結果が明らかになる一年」とのこと。残り11ヵ月……頑張りましょう!(ひよん)

お詫び

●2008年1月号でMVP賞に輝く皆さんをお知らせした際、表彰式当日欠席されたハートセンター MVP賞・手術室看護師岡村美和さんのお名前が欠落しました。ごめんなさい。改めておめでとうございます。

2008年度職員旅行

●台湾最大の都市・台北へその4

三泊四日(08.12.11~12.14)で



有名な観光スポット「台北忠烈祠」は、33万人の英霊が祀られている。陸・海・空軍から選ばれた屈指の衛兵が行なう衛兵交代は圧巻! だそうです



中央・川上めぐみMSWの誕生日12.13で、夕飯には何と豪華な甘〜いケーキが登場